

# 海外展開のススメ

実例編 パート⑧

## 山陰アシックス工業 創業者のDNA継いで

国際センターとビジネス

このコーナーでは、とっとり国際ビジネスセンターが境港で積極的に海外展開を行う企業へのインタビューを掲載しています。今回紹介するのは、山陰アシックス工業(株)(渡町、黒川勝則社長)です。

「アシックス創業者の鬼塚喜八郎氏は鳥取県の出身なのでね。」

「はい。1918(大正7)年に気高郡(現・鳥取市)の坂口家に生まれました。終戦時、戦死した戦友との約束を守るため、神戸の鬼塚家の養子となったのです。荒廃した戦後の

日本を再建するには、スポーツによる青少年の健全な育成が必要と決意し、1949(昭和24)年に鬼塚(株)を創設したのがアシックスの前身です」

「山陰アシックス工業の概要は。」

「鳥取オニツカ(株)として操業開始したのが鬼塚創業から20年後の196

9(昭和44)年です。アシックスグループの国内唯一のシューズ工場として、現在ではオニツカタイガーブランドや革製ビジネスシューズを月産約2万足生産しています」

「ところで、現在の海外取引はどうでしょうか。」

「現在、アジア圏を中心に製品の一部を海外出荷しています。コロナが明けて、オニツカタイガーブランドに好調の兆しが見えてきました。部品の仕入れに関しては今後

中国や台湾からカンボジアにシフトしつつあります。いかに早く素材を輸出して、いかに早く仕入れられるかが課題となってきています」

「市場では、靴底に何か工夫をするユニークな動きもあると聞いています。新製品などのお考えは。」

「市場調査用に試作しました。新製品などは今後も本社と連携して進めていきます」

「インタビューを終えて 創業者のDNAを受け継ぐ地元企業としてますますの発展を期待します。」

「昨年 本社と連携して、土踏まずの部分にセンサーを埋め込んで脈拍数を測るシューズを1000足ほど、



鬼塚喜八郎氏の胸像と黒川勝則社長